

教育目標	
本年度の重点目標	1 学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援 2 生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立 3 進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度
A ほぼ達成（8割以上）
B 概ね達成（6割以上）
C 変化の兆し（3割以上）
D 不十分（3割未満）



学 校 自 己 評 価							
現状と学校評価実施計画					達成状況と改善策		
No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の 評価指標	方策の達成状況	達 成 度	次年度への 課題と改善策
1	【学習指導】 ・落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身についていない生徒等がいる。 ・生徒が意欲的に授業をはじめとする学校生活に取り組むようきめ細かい指導を粘り強く行う必要がある。	(1) 教員の授業力の向上	①校内公開授業での教員相互の授業力向上を目指し、授業内容の改善を図る。（教科の枠を超えた教科指導力の向上を図る）	・公開授業等を利用し、教員相互に学び合う機会を持てたか。	・授業公開週間を年2回開催することができ、授業時間が参観者の研修時間となり、授業力の向上が図られた。 ・全教員で授業評価を実施することが出来た。	B	・生徒アンケート「私はもっと学力を伸ばしたい」91%と向学心は高い。 ・基礎学力の定着や学習状況を的確に把握し、更なる指導改善に努める必要がある。
			②授業評価を組織的に実施し結果を踏まえ改善を図る。	・改善を図った項目数。			
		(2) 基礎学力の定着	①総合的な探究の時間では学年を超えたグループ活動により、学習への意欲を向上させる。また、定期的に漢字テスト・一般常識テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	・小テストの実施状況 ・生徒アンケートにおける学力向上に関する項目の肯定的な意見の割合。	・総合的な探究の時間事後アンケートの生徒の満足度は95%であった。 ・生徒アンケート「マイスディは、自己の学力を伸ばすよい機会である」における肯定的な意見は、（R2）72.0％から、（R3）86.4%と増加している。	A	・生徒の興味・関心のある講座の新設を検討したい。 ・小テストは、4年間を見通して計画的かつ継続的な取り組みを行いたい。 ・行事ごとに、振り返り作文指導が出来たので今後も継続したい。
			②行事ごとに「振り返り」作文指導を行い、表現力を養うとともに生徒が自らの可能性に気づく学びを支援する。	・振り返り作文の実施状況。			
2	【生徒指導】 ・長期欠席、不登校、ひきこもりなどの経験者が多く、様々な生活経験・体験が乏しい。 ・失敗することを嫌い、行動しない選択をとりたいがる。 ・自ら考え行動するのではなく、指示されることを待つ事が多い。	(1) 居がいのある学校づくりの構築	①生徒の個々の状況に応じた声かけを継続し、生徒理解を深める。	・定期面談に加え、登下校指導、授業、校内外巡回時等達成状況。	・定期面談に加え、必要に応じた面談を実施すると共に、構内外巡回を徹底し、生徒の安心安全な学校生活を確保した。 ・授業を始め、学校行事、課外活動等において積極的な声かけを行い、学校生活に対する姿勢や意欲を向上させることが出来た。	A	・生徒達の声に耳を傾け、迅速な対応が適宜取れるよう、職員間の情報共有、協力体制をより強化していく。 ・引き続き感染症対策を図り、校内の諸教育活動の実施に努めたい。
			②生徒の学校生活充実のために、授業、課外活動等教育活動全般を通して積極的参加を推奨し、生徒の自主的実践的態度を育てる。	・校内の諸教育活動における生徒の充実度及び達成状況。			
		(2) 基本的生活習慣の確立	①皆勤を目指すはたらきかけを実施する。	・欠席・遅刻・早退数の減少（昨年度比）。	・1月末までの出席率は82.9%（昨年同期80.08%） ・欠席や早退時等の保護者とのスムーズな連絡、相談を徹底することが出来た。	B	・更なる出席意識の向上に向けての働きかけと、魅力ある学校生活づくりに努める。
			②生徒並びに保護者へ寄り添い、報告・連絡・相談を徹底する。	・きめ細かな双方向の連絡の実施状況。			
3	【進路指導】 ・職業観・勤労観が未熟な生徒が多い。 ・自己理解の不足等により、進路目標を明確に出来ない生徒が多い。	(1) 職業観の育成・進路意識の高揚	①進路関係の行事や、進路情報の提供等を通して、職業観の育成、進路意識の高揚をはかる。	・各行事の生徒作文での感想や生徒、保護者アンケートにおける進路に関する項目の結果。	・アンケートにおける肯定的な意見の割合は、生徒90.9%、保護者100%であった。 ・勤務先調査の結果、就労率は4月末45.8%、9月末54.2%であった。 ・生徒アンケートの該当項目において、肯定的な意見の割合は90.9%であった。	B	・行事の作文の感想やアンケートにおける進路に関する項目は良好であるので、引き続き職業観の育成に努めたい。 ・渉外部と連携して、定時制後援会会員の職場との連携を進める。
			②進路や勤務先等の調査を実施するとともに、昼間の時間を有効活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・勤務先調査の結果で就労率70%以上。 ・職業観に関する生徒アンケート結果。			
		(2) 自己理解の深化	①LHRや総合的な探求の時間等における取組や、適性検査の結果等を活用し、多面的に自己理解を深めさせる。	・職業観に関する生徒アンケート結果。 ・進路希望調査における未定者の減少。	・進路希望調査における希望職種未定者の数は4月末11人、9月末6人であった。	B	・引き続き様々な教育場面でキャリア教育を実践していく。

学校関係者評価	
実施日	令和4年2月17日
学校関係者からの 評価・意見等	
・生徒のアンケートに対する反応は肯定的な答えが多く、年を追うごとに増加傾向が見られ先生方の熱心な指導によるものと見受ける。特に自己規制力・向学心も高く、自己を肯定的に捉えることもできる姿が見られる。 ・「本校に入学してよかった(95.5%)」「毎日の学校生活は楽しい(81.8%)」と肯定的であることに本校の良さが見える。 ・保護者のHP閲覧が少ないようである。コロナ禍にあって保護者が学校と係わる機会が減少していることから、HPも積極的に活用し、学校とのつながりを持てるよう努力をして欲しい。 ・全日制に通うことが困難な生徒にとって、定時制の存在は、学習面だけでなく社会人としての必要なスキルを身につける上でも重要な教育の場と考える。スクールカウンセラー等を活用し、生徒の声に耳を傾けながら、一人一人の生徒の心に寄り添った指導を引き続きお願いしたい。 ・アンケートに見える、生徒、保護者、教員の回答結果における違い（%差）を顧みて、改善点を押さえて欲しい。	